

実践例：〇〇ビンゴ！（ソーシャルスキルトレーニング）

ビンゴは、書いたことが人と合っていれば、共感が生まれ、違っていれば自分のユニークさや多様な意見の発見になります。テーマやグループを変えれば、何度でも楽しむことができます。進め方に示す話の仕方（ルールの守り方）を体験することで、自分の言葉でしっかり話すこと、相手の話をしっかり聞くことができ、同じルールで皆が行動する場面を共有できます。

こんなクラスで実施を

ルールが定着していない騒がしいクラス
おとなしくどこかしらけたクラス

ねらい

クラスの感情交流とリレーションをつくる活動をとおして、基本的な聞く態度、会話への配慮、基本的な話す態度を身につかせること

進め方

- 1、教師のインストラクション（言語的教示）
教師の自己開示をプラス面で語り動機付ける。
- 2、説明

今から番号順に一人一人発表していきます。

一番の人は、「私の好きな食べ物は です」と大きな声でいいます。

話終わったら、2番の人に顔を向けて、「 さんと苗字を呼んで、好きな食べ物はなんですか」と話します。

2番の人は同じように

「私の好きな食べ物は です」と話します。

3番の人に顔を向けて「 さんと苗字を呼んで、好きな食べ物はなんですか」と話します。

同じように続けます。

話す人は1回でみんなに聞こえるように大きな声で言ってください。

聴く人は1回で聞き取れるようにしてください。

あと一つでビンゴになるとき、「リーチ」たて、横・斜めのどれかが揃ったら、「ビンゴ」とみんなに聞こえるように言いましょう。

ビンゴになった人は、誰の言ってくれた食べ物が並んでビンゴになったか教えてもらうので、自分と同じ食べ物が出たときに、誰だったが記入しておきましょう。

ビンゴのテーマ例

- ・好きなものシリーズ・・・好きな食べ物、好きな給食のメニュー、好きなスポーツ、好きな果物、教室に呼びたい芸能人
- ・知っていることシリーズ・・・知っている県名、教科書に出てくる歴史上の人物、知っている四字熟語、知っていることわざ
- ・生活を振り返るシリーズ・・・クラスのいいところ、お母さんにいわれたくない言葉
- ・課題追求場面で・・・燃えないゴミ、燃えるゴミ、公園探検で発見！

基本形のビンゴ用紙

9、16、25のマスがあればできる

好きな食べ物ビンゴ 年 組 名前

四角の中に好きな食べ物を書きましょう。

今日のビンゴ！を振り返って、感じたこと、気づいたことを書きましょう。

定着化のアイディア

- ・書いてもらった感想を学級通信で紹介
- ・「題」を替えて、朝の会、帰りの会等で定期的実施
- ・体験した話し方を友達との会話に使う。「 さん、一緒に遊びませんか」

【参考文献】河村茂雄編集『skill up集団を育てる学級づくり12か月』、図書文化、2007

國分康孝・小林正幸・相川充『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる 小学校』、図書文化、2004